



2024年11月期 第2四半期 決算説明会

株式会社ラクト・ジャパン

2024年7月19日

INDEX

- 01 2024年11月期 第2四半期連結業績および通期連結業績予想
- 02 2024年11月期 第2四半期 事業の概況
- 03 今後の見通し
- 04 中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の進捗状況

01

2024年11月期 第2四半期連結業績
および通期連結業績予想

2024年11月期 第2四半期 連結業績概要

- 経済活動の正常化、インバウンド旅客の増加などに伴い国内事業が回復傾向。アジア事業もチーズ製造販売部門が復調。販売数量の増加に為替影響も加わり、第2四半期（累計）の売上高としては、過去最高値を更新。
- 国内の乳原料・チーズ部門と、アジア事業の利益率改善により経常利益、四半期純利益ともに第2四半期としては過去最高益を記録。

	2023.11期 第2四半期	修正予想 2024/4/12 公表	2024.11期 第2四半期		
			実績	前期比 (%)	修正予想比 (%)
(単位：百万円)					
売上高	80,450	80,000	84,560	+5.1	+5.7
経常利益	1,344	1,800	2,260	+68.1	+25.6
経常利益率 (%)	1.7	2.3	2.7	—	—
経常利益に含まれる 為替影響額※	(△72)	—	(△24)	—	—
為替影響額修正後 経常利益	(1,417)	—	(2,285)	(+61.3)	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	922	1,300	1,654	+79.3	+27.2
四半期純利益率 (%)	1.1	1.6	2.0	—	—
1株当たり 四半期純利益(円)	93.17	130.44	165.97		
為替レート(円/USD)	133.82	—	149.95		
為替レート(円/EUR)	144.09	—	162.47		

主な増減ポイント

①売上高：過去最高を更新

POINT

①

国内事業はすべての部門で主に販売数量の増加により前年同期を上回る売上高となった。

POINT

②

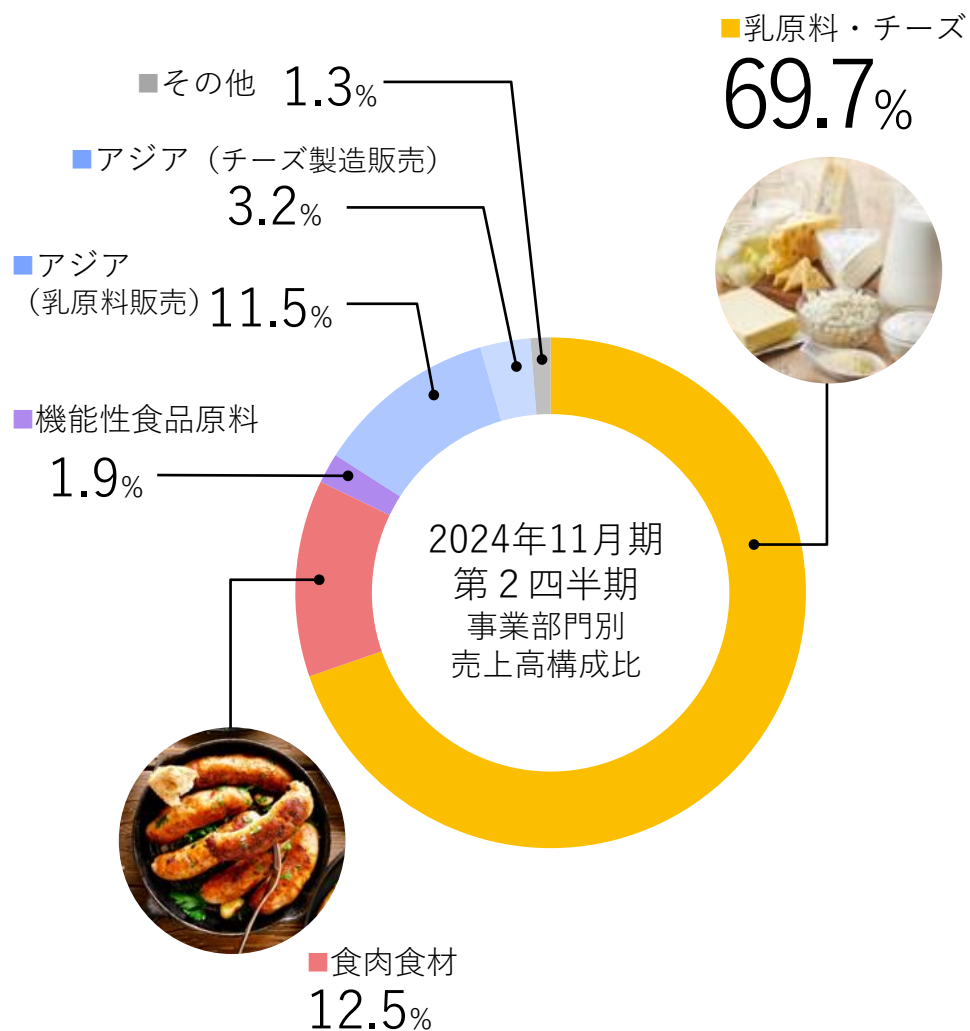
アジア事業はチーズ製造販売部門で販売数量が前期比で増加し増収。

②経常利益：前年同期比大幅増益

国内事業の乳原料・チーズ部門、およびアジア事業（乳原料販売部門、チーズ製造販売部門ともに）の利益率改善により経常利益は前期比大幅増益。

(注) 財務数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しております。

※経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。そのため売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております。



乳原料・チーズ部門

売上高	58,932百万円	前期比	3.8%増
販売数量	91,099トン	前期比	6.8%増

食肉食材部門

売上高	10,538百万円	前期比	17.1%増
販売数量	15,843トン	前期比	14.2%増

機能性食品原料部門

売上高	1,608百万円	前期比	1.4%増
販売数量	1,267トン	前期比	12.0%増

アジア事業（乳原料販売部門）

売上高	9,731百万円	前期比	7.9%減
販売数量	18,518トン	前期比	12.2%減

アジア事業（チーズ製造販売部門）

売上高	2,679百万円	前期比	19.3%増
販売数量	2,536トン	前期比	7.1%増

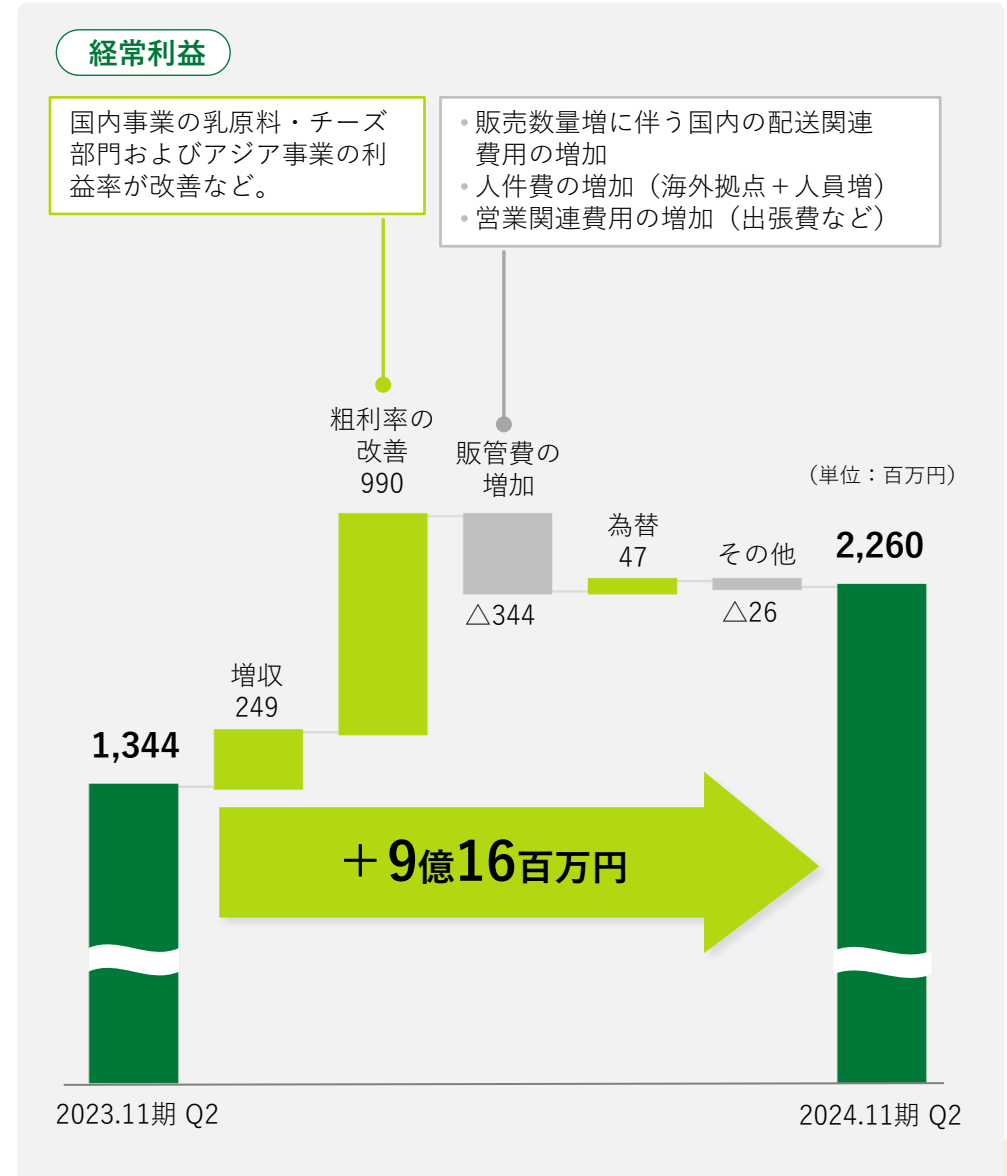
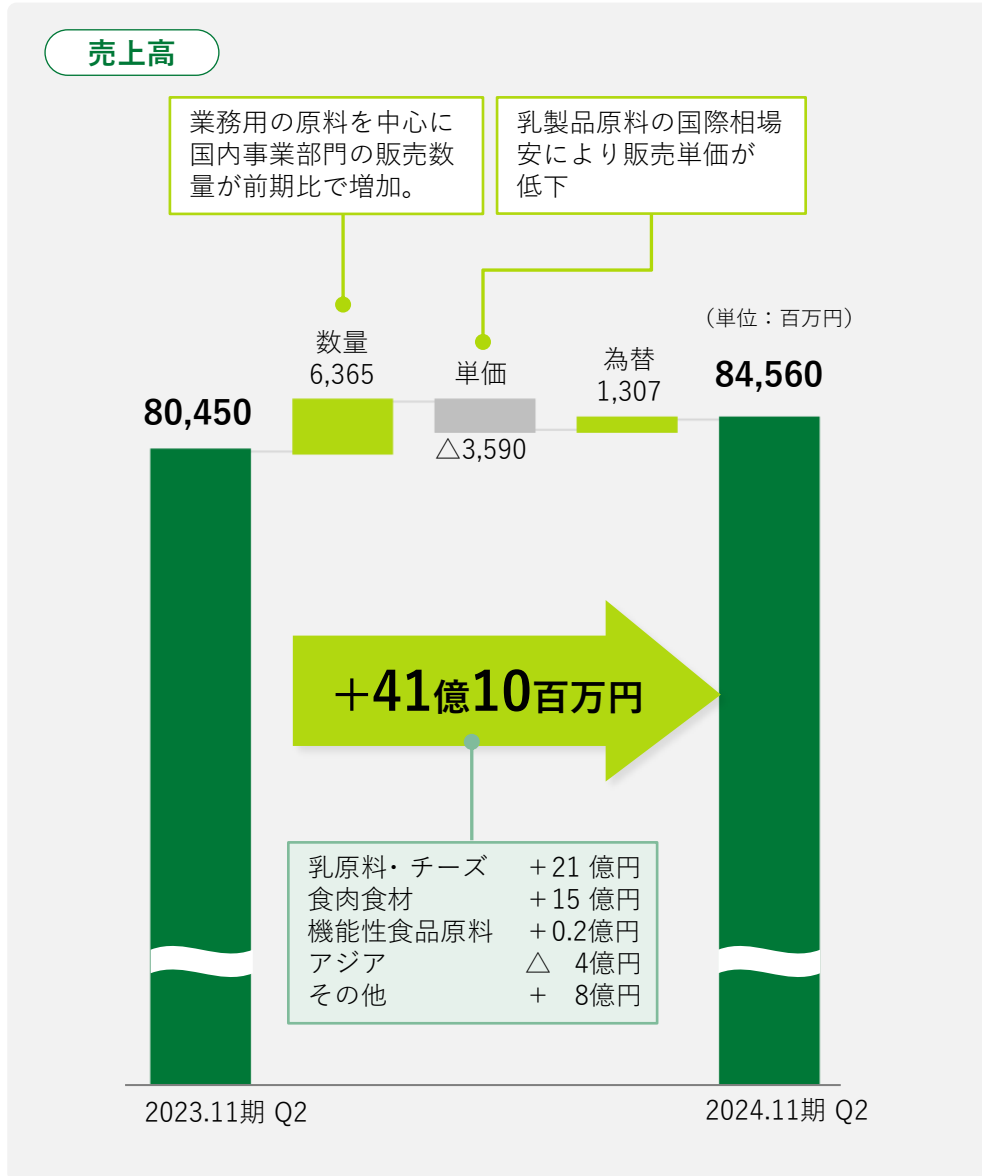
その他

売上高	1,068百万円	前期比	304.8%増
-----	----------	-----	---------

（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は端数切捨て。増減率は四捨五入しております。

売上高および経常利益の増減要因

- 売上高：販売数量の増加により修正予想値を上回って着地
- 経常利益：国内事業、アジア事業ともに利益率が改善



(注) 売上高・経常利益の増減の内訳： 単位以下の端数は四捨五入

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023.11月末	2024.5月末	増減額
流動資産合計	67,068	73,373	6,304
現金及び預金	7,779	8,905	1,125
受取手形及び売掛金	18,700	21,644	2,944
棚卸資産	39,806	41,728	1,921
流動資産その他	782	1,094	312
固定資産合計	4,969	4,880	△89
有形固定資産	2,185	2,442	257
無形固定資産	73	144	70
投資その他の資産	2,710	2,293	△417
資産合計	72,038	78,253	6,215
買掛金	14,033	15,116	1,082
有利子負債	31,518	34,163	2,644
負債その他	1,763	2,005	242
負債合計	47,314	51,284	3,969
純資産合計	24,724	26,969	2,245
負債純資産合計	72,038	78,253	6,215

POINT
①

POINT
②

POINT
③

主な増減ポイント

受取手形及び売掛金／棚卸資産の増加

- ① ② 国内の乳原料販売および機能性食品原料販売の売上・契約数量の増加。

有利子負債の増加

- ③ 運転資金の増加に伴う借入金の増加

(財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載)

(注) 当社の棚卸資産は原則、販売に紐づいており、当社は自社で在庫を抱えるリスクは負っておりません。

● 取引増加により売上債権、棚卸資産が増加し、営業キャッシュ・フローはマイナスで着地

	2024.11期 第2四半期
(単位：百万円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,590
投資活動によるキャッシュ・フロー	295
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,195
現金及び現金同等物に係る換算差額	224
現金及び現金同等物の増減額	1,125
現金及び現金同等物の期首残高	7,282
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,408

POINT
①

POINT
②

POINT
③

主な増減ポイント

営業CF

- ① 取引増加に伴う運転資本（売上債権・棚卸資産）の増加

投資CF

- ② 保険積立金の払い戻しによる収入

財務CF

- ③ 運転資金の増加に伴う借入金の増加

(注) 財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載

- 下期は、円安進行や食品価格上昇による消費動向への影響、足元増産傾向となっている生乳生産が国内脱脂粉乳在庫に及ぼす影響などが見込まれるも、第2四半期累計期間の実績値および下半期の受注動向を勘案し通期の業績予想を上方修正。併せて配当予想も見直し、増配を予定。

	2023.11期 実績	2024.11期				
		期初予想	修正予想	前期比増	前期比 (%)	
(単位：百万円)						
売上高	158,328	160,000	164,000	+5,671	+3.6 <small>POINT ①</small>	
経常利益	2,847	3,400	4,100	+1,252	+44.0 <small>POINT ②</small>	
経常利益率 (%)	1.8	2.1	2.5	—	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,048	2,400	3,000	+951	+46.4	
当期純利益率 (%)	1.3	1.5	1.8	—	—	
1株当たり当期純利益 (円)	206.46	241.06	301.13	+94.67		
1株当たり配当金 (円)	年額	48.00	62.00	76.00	+28.00	<small>POINT ③</small>
	中間	24.00	31.00	31.00	+7.00	
	期末	24.00	31.00	45.00	+21.00	

業績予想の前提

- ① 国内事業全般およびアジア事業のチーズ製造販売部門における販売数量が前期比で増加の見込み。なお販売単価は、原料相場の落ち着きにより、若干低下を想定。
- ② 国内事業の乳原料・チーズ部門および、アジア事業の乳原料販売部門、チーズ製造販売部門の利益率が改善の見込み。
- ③ 業績予想の修正に伴い配当も見直し、期初予想よりさらに増配予定。

(注) 財務数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しております。

● 通期業績予想の修正とともに、前提となる各部門の売上高・販売数量の予想値も修正

(単位：百万円)

	2023.11期				2024.11期		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	通期予想
乳原料・チーズ	27,594	29,196	26,367	28,687	28,124	30,807	113,000
前年同期比	25.3%	16.0%	4.8%	8.4%	1.9%	5.5%	1.0%
食肉食材	4,063	4,933	4,416	4,854	5,111	5,427	20,000
前年同期比	15.1%	33.7%	19.2%	15.4%	25.8%	10.0%	9.5%
機能性食品原料	625	961	1,142	1,188	744	863	5,000
前年同期比	93.2%	65.5%	155.3%	64.8%	19.1%	△10.1%	27.6%
アジア（乳原料販売）	5,248	5,316	3,534	4,823	4,207	5,523	18,500
前年同期比	9.7%	△29.1%	△50.4%	△33.6%	△19.8%	3.9%	△2.2%
アジア（チーズ製造販売）	1,087	1,158	1,226	1,355	1,264	1,414	5,500
前年同期比	16.3%	29.9%	15.2%	24.1%	16.3%	22.0%	13.9%
その他	126	137	192	88	267	801	2,000
前年同期比	△20.3%	△29.1%	△3.0%	△52.0%	111.9%	481.1%	267.1%
売上高合計	38,745	41,704	36,880	40,997	39,720	44,839	164,000
前年同期比	22.0%	9.7%	△2.2%	2.7%	2.5%	7.5%	3.6%

(数値の表示は端数切捨て)

(単位：トン)

	2023.11期				2024.11期		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	通期予想
乳原料・チーズ	40,578	44,757	39,464	42,622	45,583	45,515	180,000
前年同期比	△13.2%	△10.0%	△11.6%	1.8%	12.3%	1.7%	7.5%
食肉食材	6,005	7,872	6,957	7,289	7,766	8,076	30,000
前年同期比	0.0%	29.2%	13.5%	11.3%	29.3%	2.6%	6.7%
機能性食品原料	409	722	736	938	584	683	4,300
前年同期比	61.1%	67.0%	134.8%	65.3%	42.7%	△5.4%	53.2%
アジア（乳原料販売）	10,374	10,713	6,390	9,772	8,286	10,232	35,500
前年同期比	△9.0%	△29.3%	△48.3%	△15.2%	△20.1%	△4.5%	△4.7%
アジア（チーズ製造販売）	1,154	1,214	1,172	1,286	1,228	1,307	5,200
前年同期比	△7.9%	12.1%	△5.7%	6.6%	6.4%	7.6%	7.7%

(数値の表示は端数切捨て)

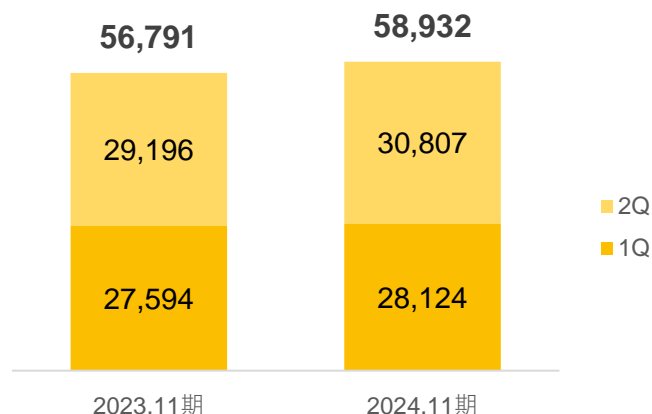
02

2024年11月期 第2四半期 事業の概況

乳原料・チーズ部門

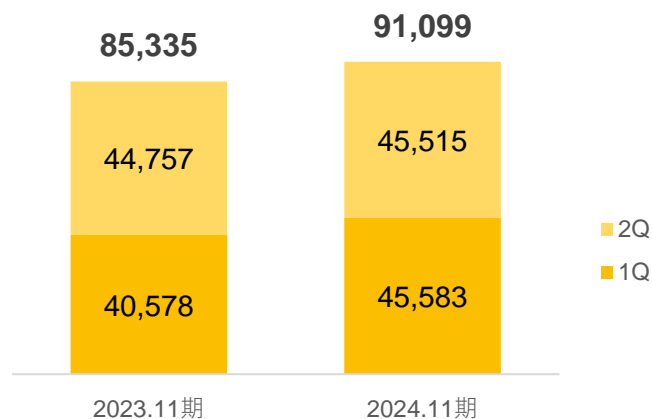
売上高

(単位：百万円)



販売数量

(単位：トン)



事業概況

- インバウンド消費の増加などにより外食・レジャー産業が活況となったため、業務用需要は回復した。なかでも、土産品、アイスクリーム、チョコレートなどの原料販売が好調に推移。
- チーズも業務用の販売が好調となり、その結果、当部門の販売数量は前期比プラスとなった。
- 主に販売数量増により売上高も前期実績を上回った。
- 商品ミックスの改善などにより部門の利益率は改善。連結経常利益の増額に貢献。
- 国産脱脂粉乳は、対策事業や生乳生産量の減少により、在庫水準が低下、5万トン台の落ち着いた展開となった。

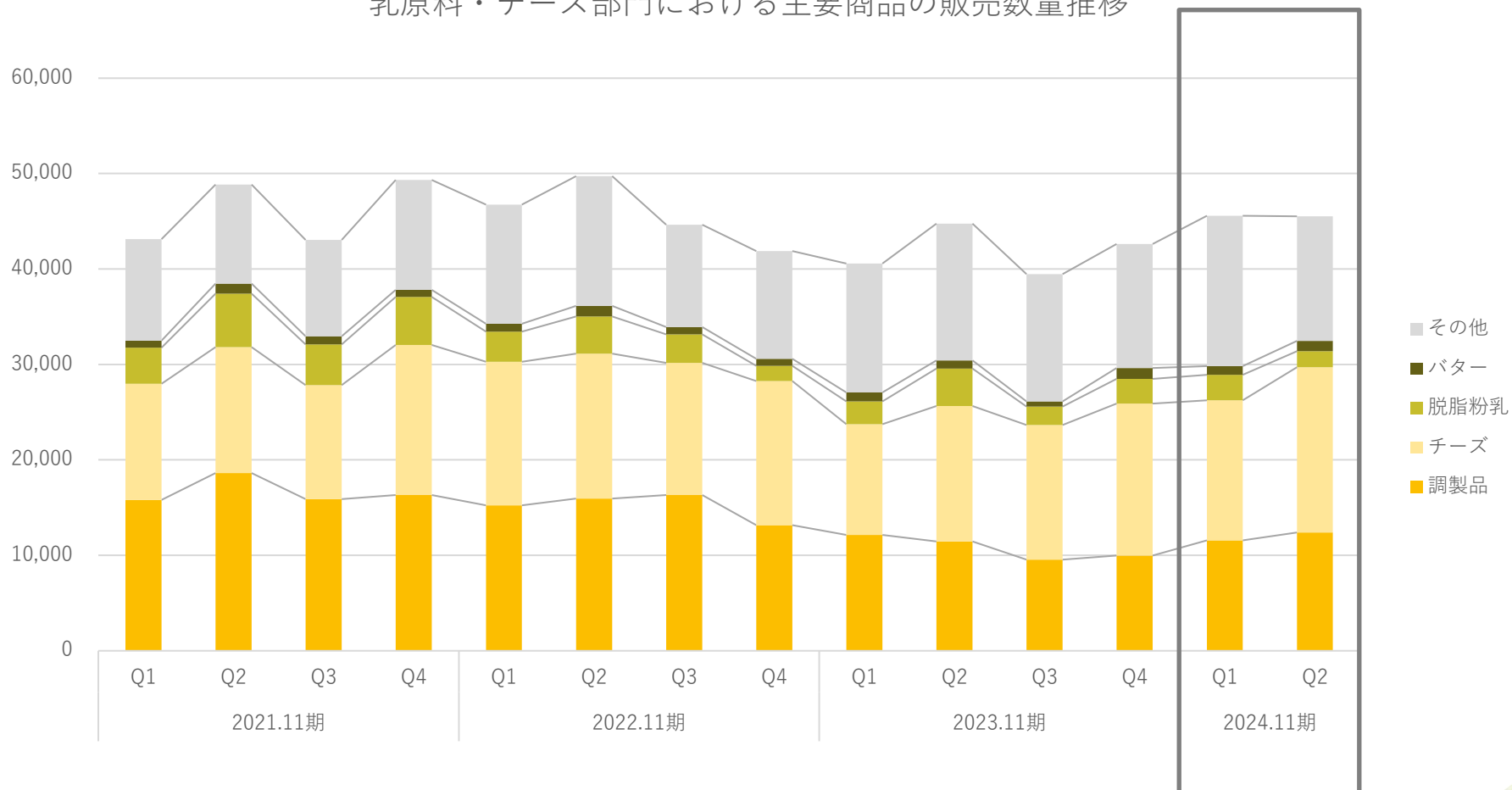
(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

乳原料・チーズ部門

● 2024年11月期に入り、主要商品の販売数量は回復傾向

(単位：トン)

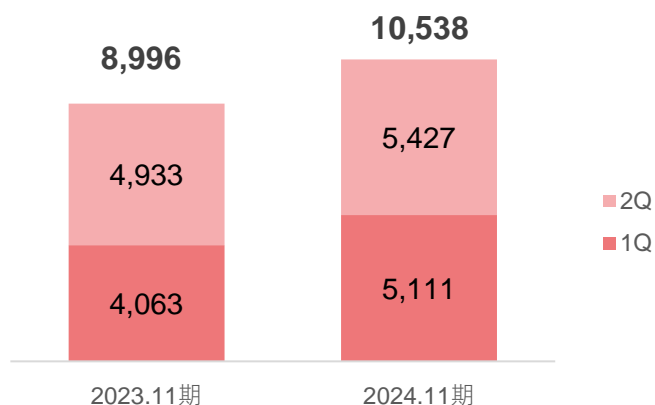
乳原料・チーズ部門における主要商品の販売数量推移



食肉食材部門

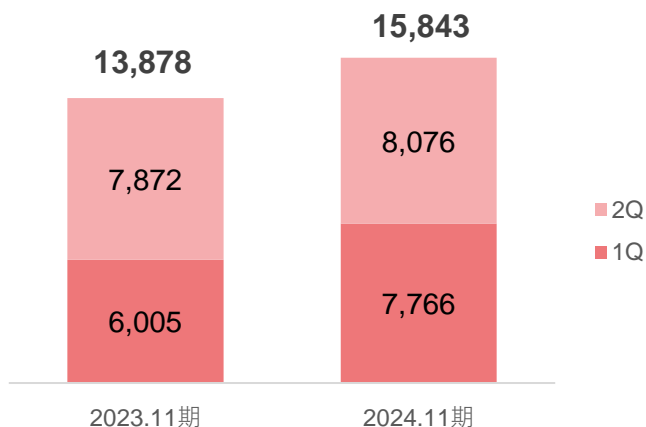
売上高

(単位：百万円)



販売数量

(単位：トン)

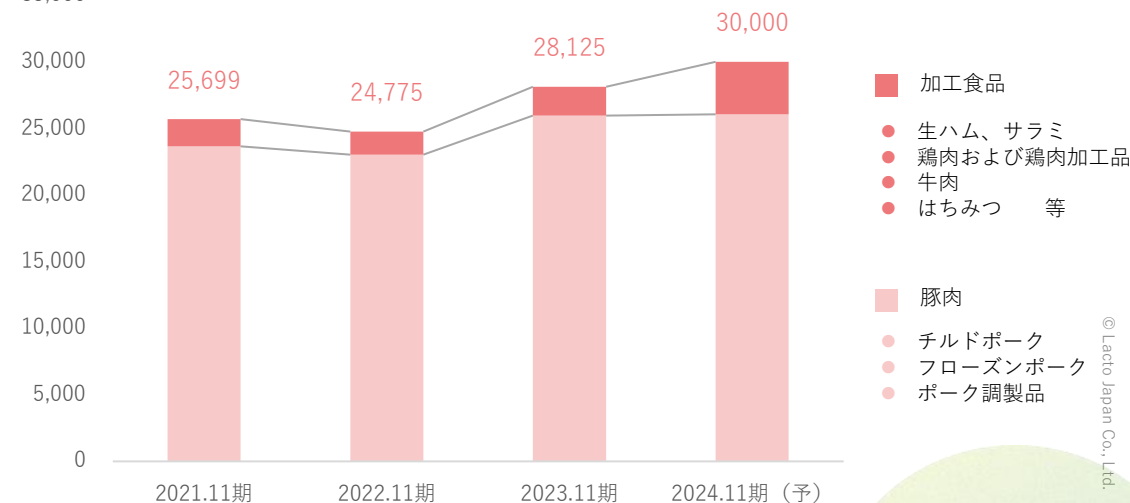


事業概況

- 欧州産豚肉の相場が上昇するなか、北米産豚肉の販売が増加。加工食品販売も伸長したことから、当部門の販売数量は前年同期を上回った。
- 豚肉において相場高、円安の影響から販売単価が高めに推移したことに加えて、販売数量が増加したことから部門売上は前期比プラスとなった。
- 前期より開始した鶏肉加工品の商売は今期も好調に推移。利益率については前期比で若干の改善に留まる。

(単位：トン)

食肉食材部門 販売数量

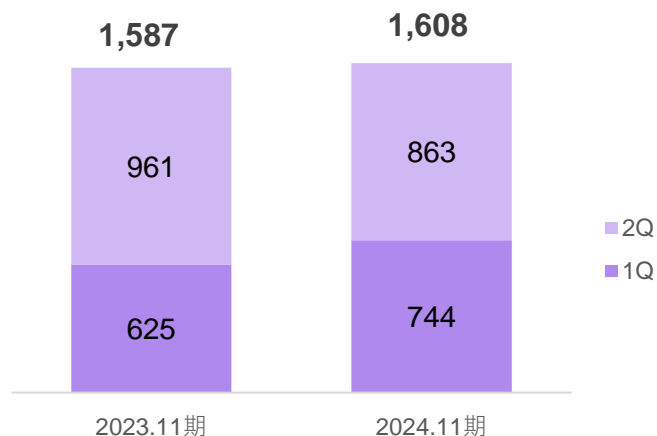


(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

機能性食品原料部門

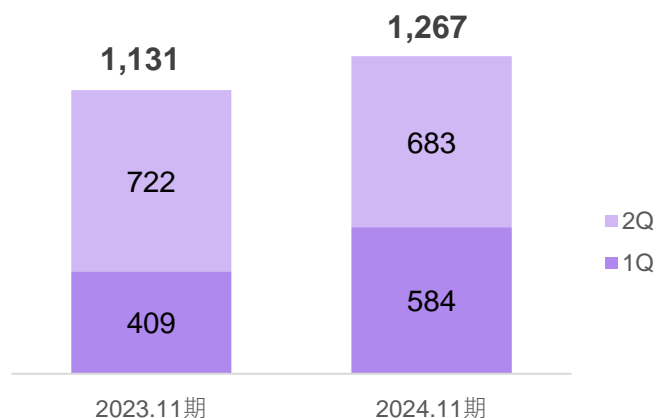
売上高

(単位：百万円)



販売数量

(単位：トン)



(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

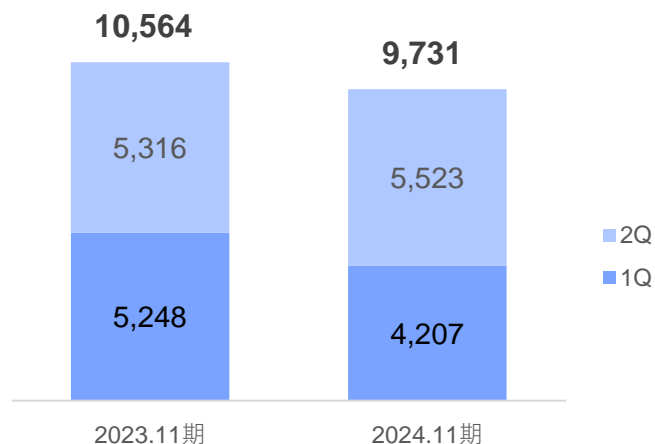
事業概況

- プロテイン製品の原料となる乳たんぱくの販売が引き続き好調。健康意識の高まりを背景に、スポーツ関連市場が活況であることに加え、食品全般で「高たんぱく」が開発のテーマとなっていることから関連市場の拡大が顕著であり、輸入数量も増加。
- 当社の販売数量、売上高は前年同期を上回って着地。
- 需要が旺盛な乳たんぱくの販売にリソースを振り分けたため、その他の機能性食品原料の販売計画を下回った。

アジア・乳原料販売部門

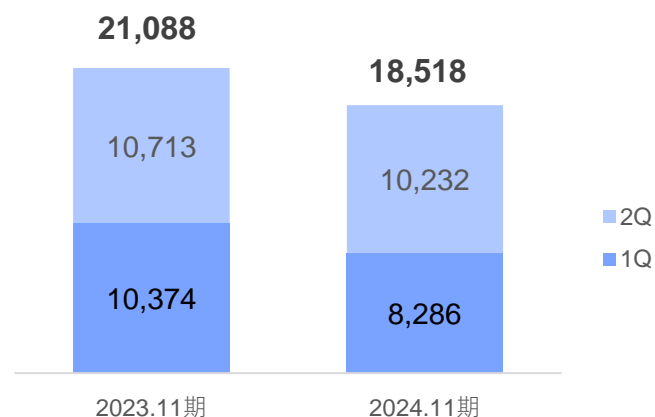
売上高

(単位：百万円)



販売数量

(単位：トン)



(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

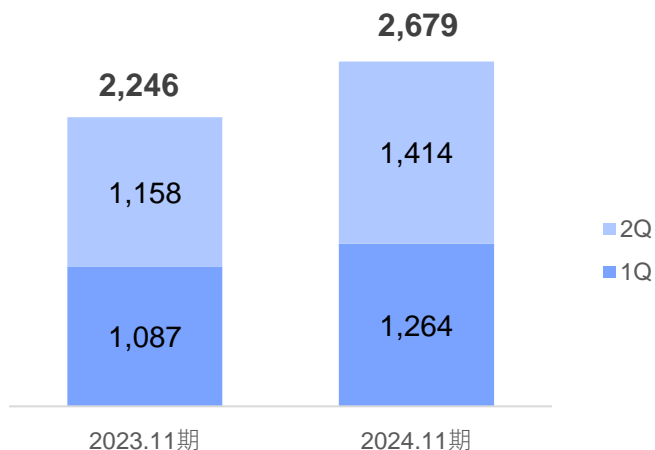
事業概況

- 日本において脱脂粉乳の過剰在庫の調整が進んだことにより、日本からの脱脂粉乳 輸出に関連した取引は前期比で大幅に減少。
- 日系企業向けを中心に東南アジア地域での乳原料の販売は堅調。日本向け乳調製品の原料販売も復調の兆し。
- 一方、現地企業向けの価格訴求品の入札商売では競争が激しく、昨年より販売数量が減少。
- プロダクトミックスの改善などにより利益率は改善。連結経常利益の増益に貢献。

アジア・チーズ製造販売部門

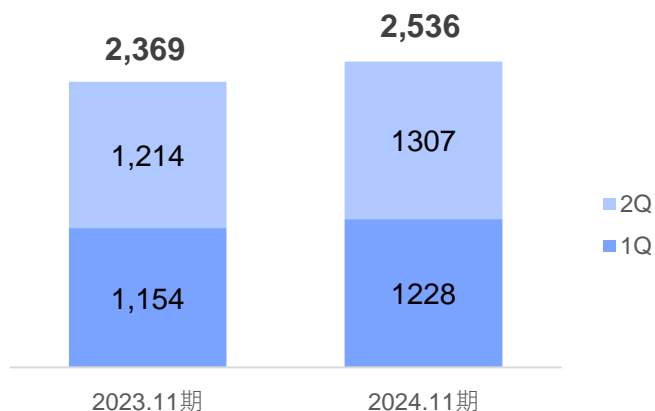
売上高

(単位：百万円)



販売数量

(単位：トン)



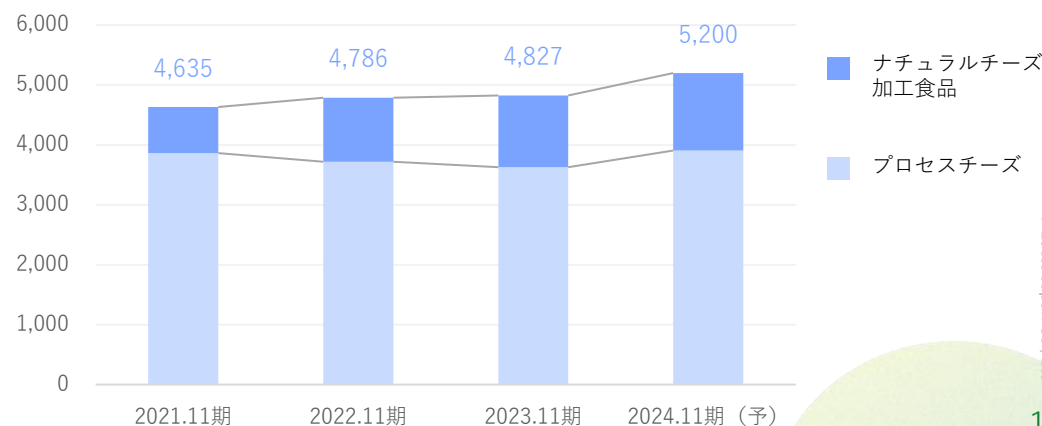
(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

事業概況

- 中国需要に関連したプロセスチーズ販売は引き続き低調。
- タイの景気は徐々に持ち直し、同国向けの販売数量も回復傾向。ただし、アジア各国の通貨に対するドル高の影響などから加工食品メーカーへの販売が低調となった。
- シンガポールを中心に外食（ピザチェーン）やベーカリー向けの販売は堅調。
- 原料チーズ価格の低下により原価率が改善したことに加え、前期に実施した販売価格改定の効果により当部門の利益率は改善。連結経常利益の増益に貢献。

(単位：トン)

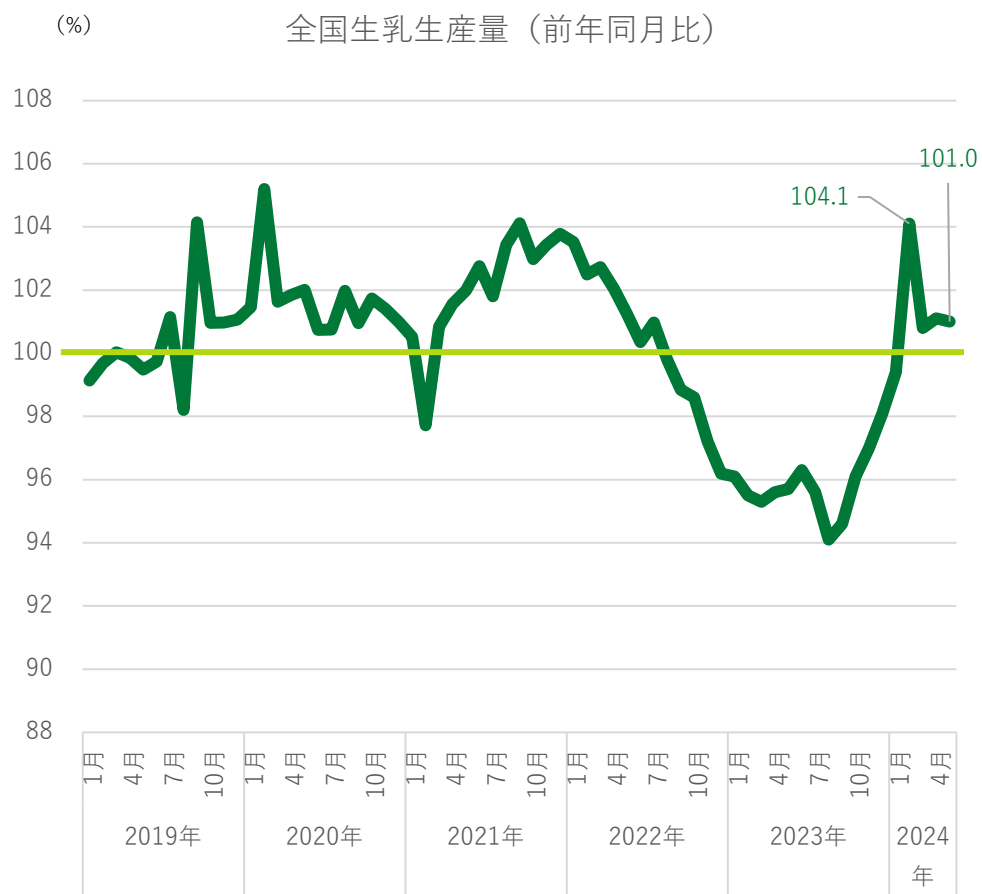
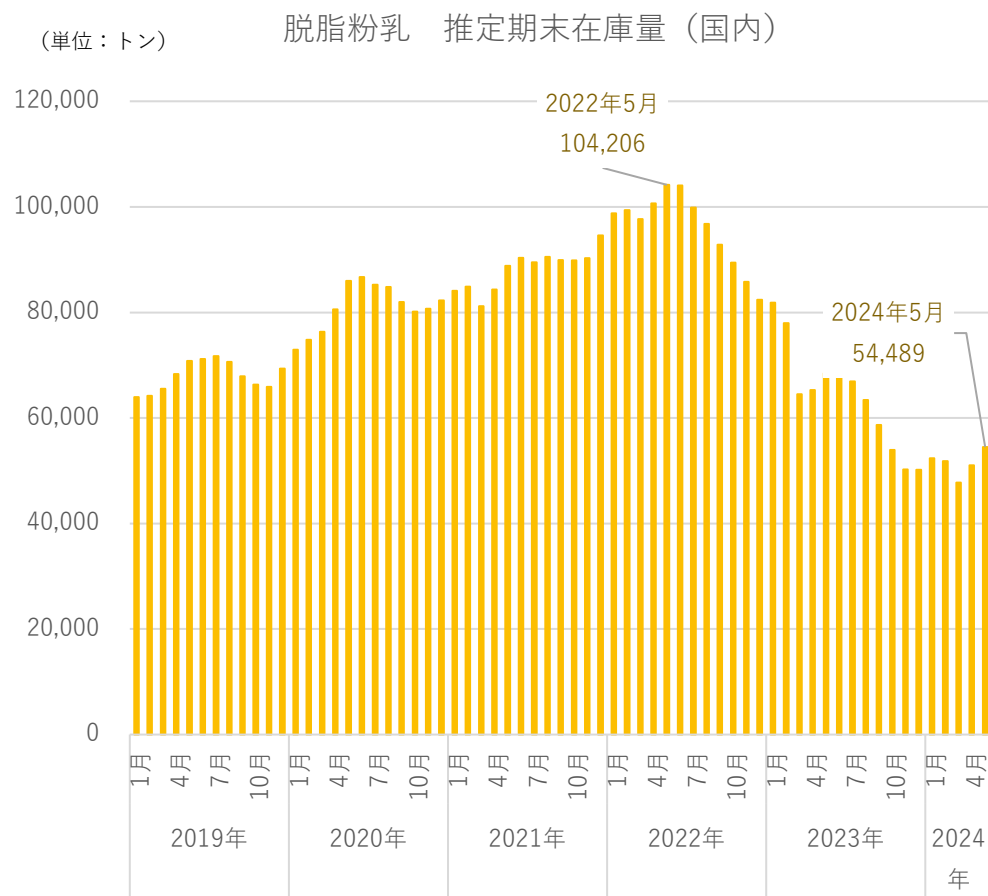
アジア・チーズ製造販売部門 販売数量



03 今後の見通し

事業部門	下期の見通し
乳原料・チーズ	<p>販売動向 乳原料、チーズともに輸入原料の引き合いは多いが、商品により需要動向はばらつきあり。乳原料の販売先の多くが秋に最終製品の価格改定を予定しており、消費者の買い控え懸念もある。バターなど脂肪系原料は好調を見込む。主力商品である粉乳調製品は回復基調も、期初想定ほどの力強さはなく、上期並みを見込む。</p> <p>変動要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 秋の製品値上げによる消費への影響 • 夏季気候の影響（猛暑による生乳生産量減少、乳製品の消費動向への影響） • 円安進行の影響（輸入原料価格の上昇による原料買い控え、さらなるインフレ進行懸念）
食肉食材	<p>販売動向 豚肉製品については、引き続きフローズンポークは好調な販売を見込む。鶏肉加工品の受注は好調なことから、部門の販売数量は前期を上回る見込み。</p> <p>変動要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 円安進行の影響（輸入価格の上昇が需要を冷やす懸念） • 豚肉相場の上昇懸念
機能性食品原料	<p>販売動向 プロテイン市場の拡大の勢いが強く、当期は高たんぱく原料中心の営業活動に注力。高たんぱく原料の販売では、既存顧客への販売増に加えて、新規顧客との取引も見込まれていることから、売上は上期を上回る見込み。</p> <p>変動要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高たんぱく原料の相場上昇

- 脱脂粉乳在庫は対策事業の成果と生乳生産量の減少により調整が進捗
- 2024年2月以降の生乳生産量は前年同月比プラスが続くが、夏季は猛暑による生産量減少懸念もあり

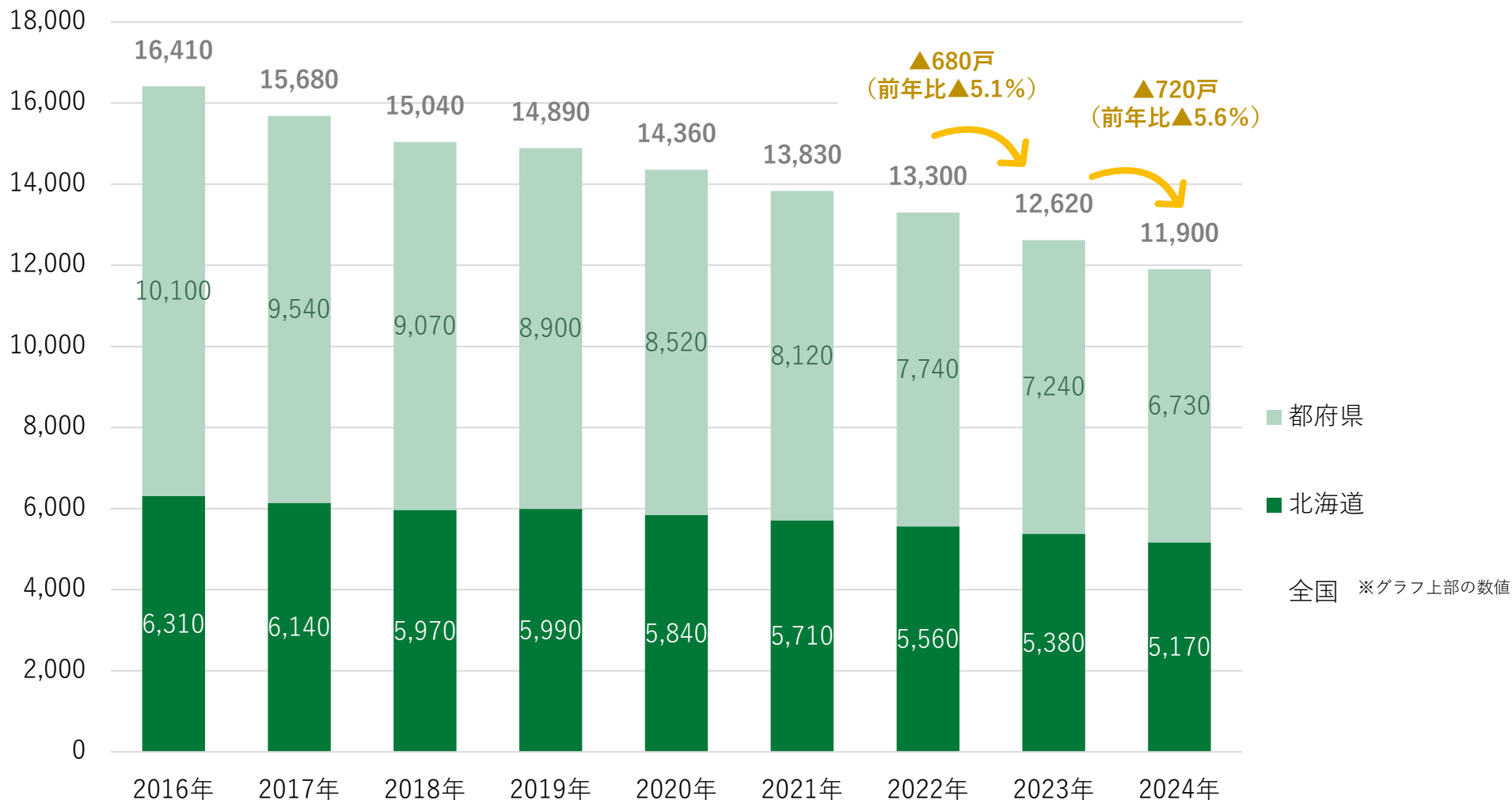


(出典) 牛乳乳製品統計調査 (農林水産省) より作成

● 飼養戸数（酪農家数）は減少が続く

飼養戸数（乳用牛）

(単位：戸)

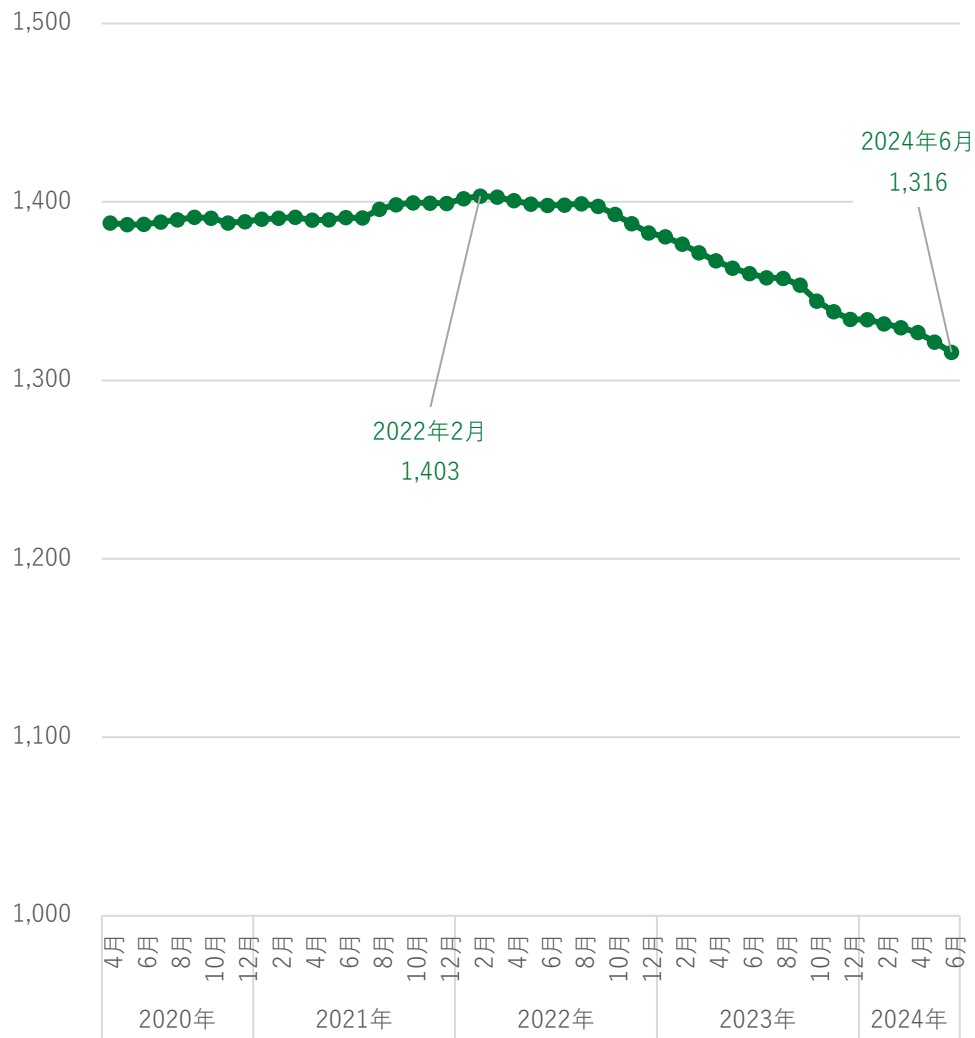


(出典) 「年度別・県別・月齢別 乳用種（雌）の飼養頭数（2020年度～2024年度）」（Jミルク）より作成
※統計データは2024年7月9日公表情報による 毎年2月1日現在（3月～2月の戸数）

● 飼養頭数も減少傾向

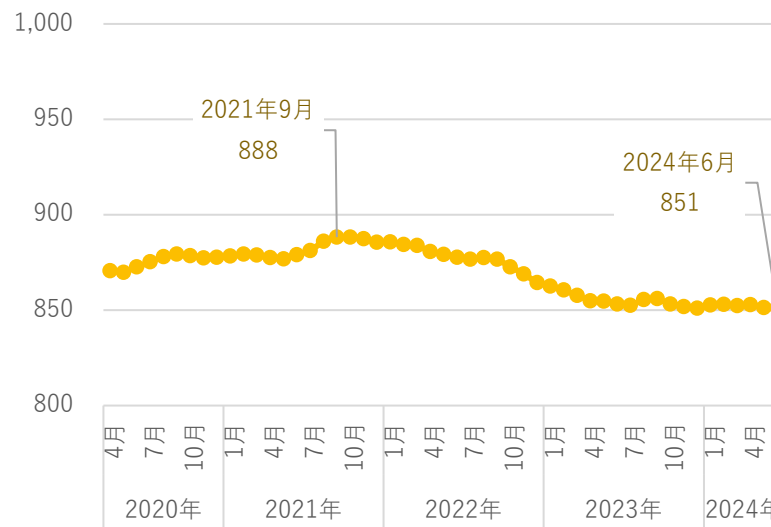
飼養頭数（全国総計）

（単位：千頭）



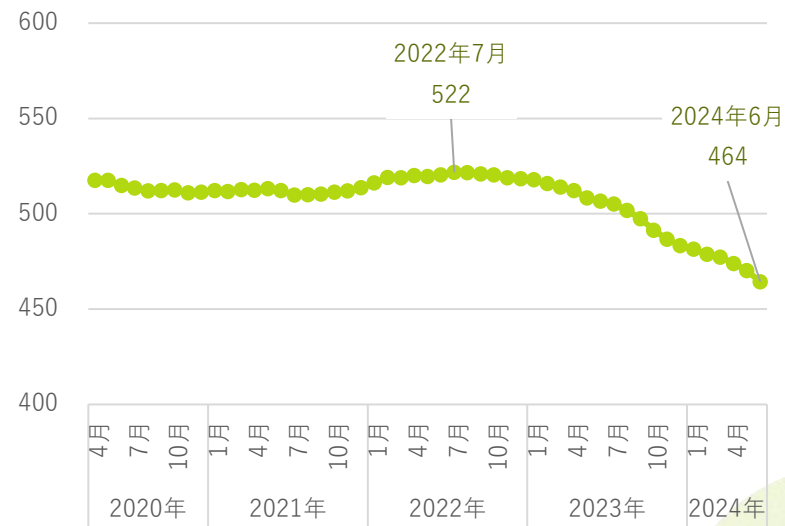
飼養頭数（全国：2歳以上）

（単位：千頭）



飼養頭数（全国：0歳以上、2歳未満）

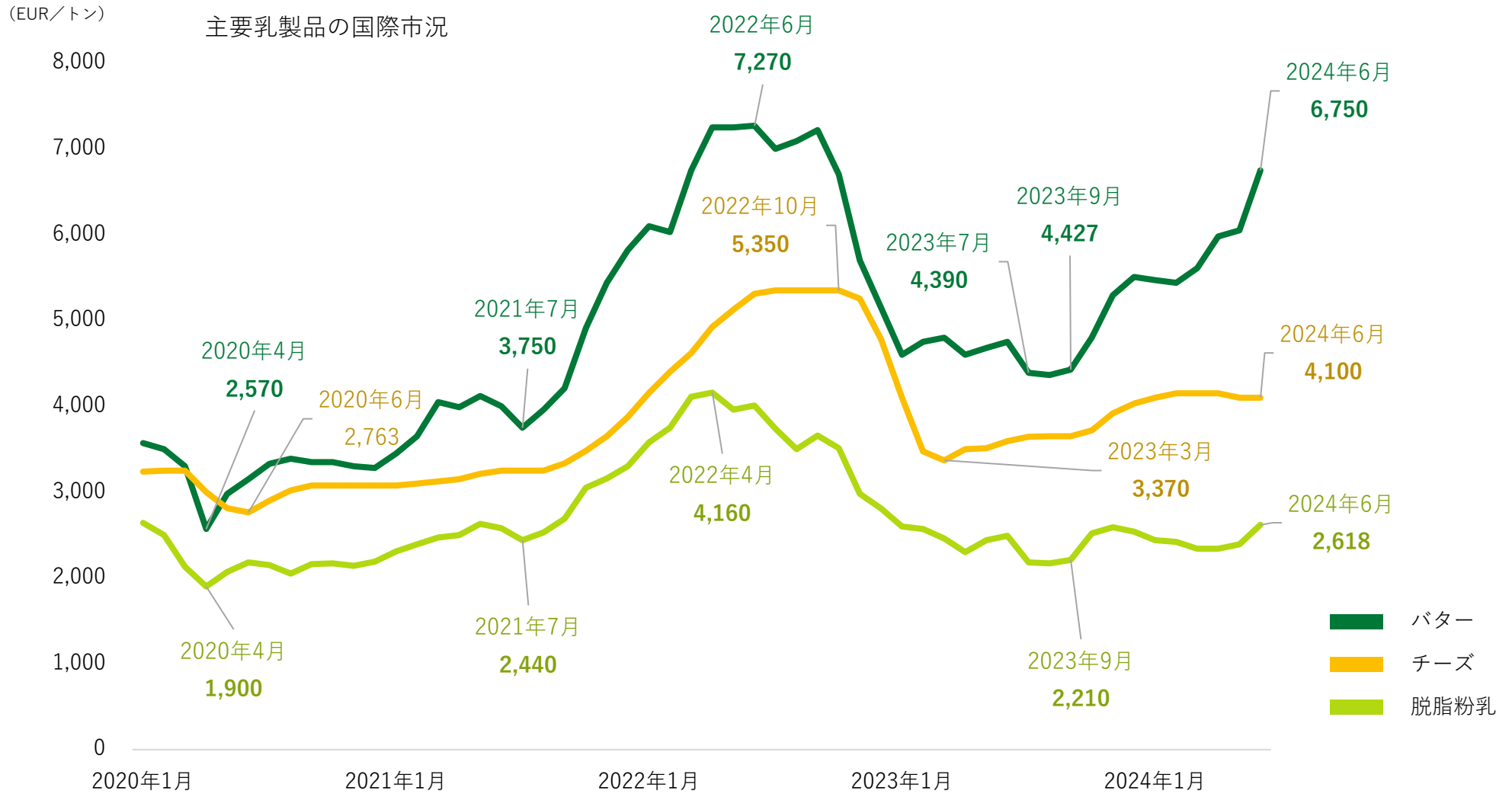
（単位：千頭）



（出典）「年度別・県別・月齢別 乳用種（雌）の飼養頭数（2020年度～2023年度）」（Jミルク）より作成
 ※統計データは2024年7月9日公表情報による

乳製品の国際市況

- 2024年に入りバター相場は上昇。一方、チーズおよび脱脂粉乳は落ち着いた相場展開が継続。

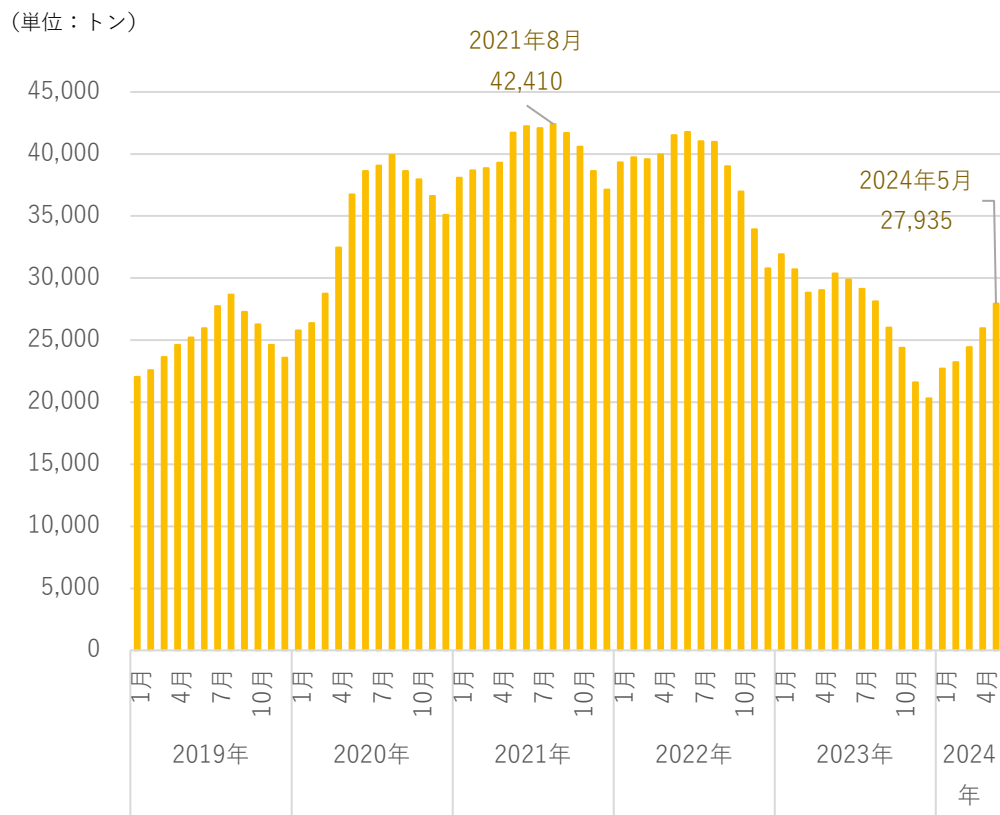


(注) 脱脂粉乳・バター：オランダ公定価格（工場前価格）

チーズ：ドイツ産エダムチーズ

- 脂肪系の原料需要が旺盛で、関連原料の輸入ビジネスには追い風。
- 農畜産業振興機構（ALIC）による今期のバター入札枠が約4,000トン増枠となり入札機会が増加。

バター 推定期末在庫量（国内）



（出典）牛乳乳製品統計調査（農林水産省）より作成

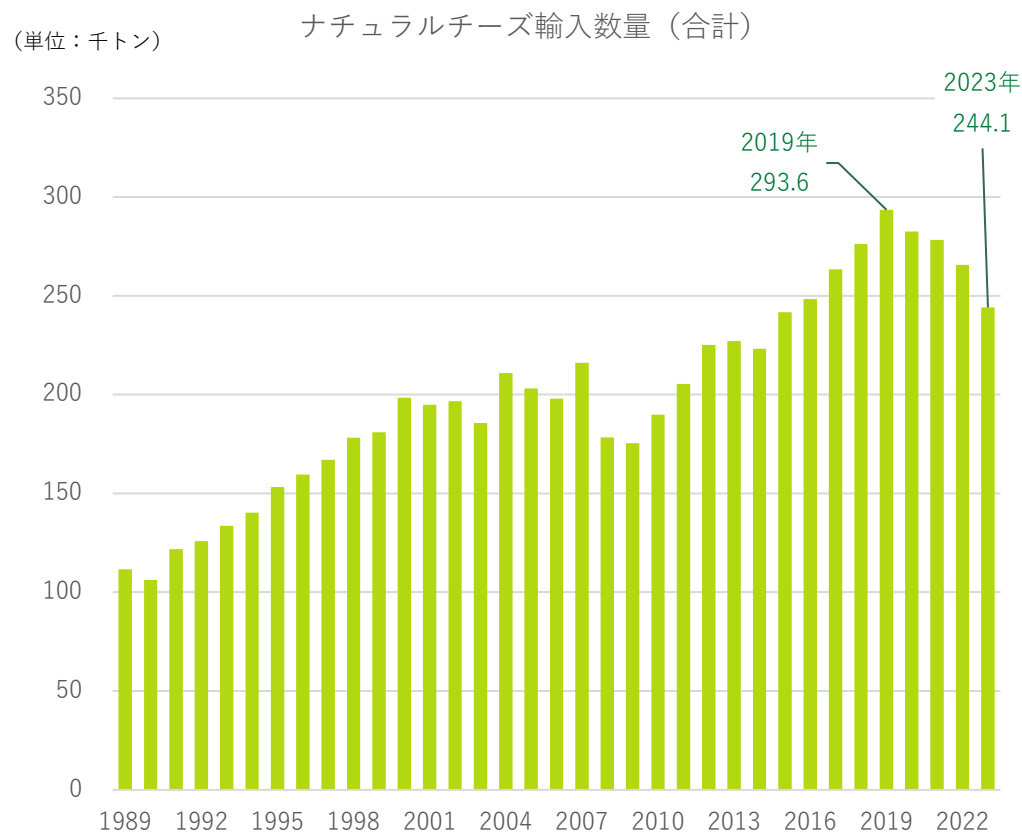
2024年度の輸入枠数量

	<1月時点>		<6月時点>
脱脂粉乳	750トン以内	⇒	750トン以内
ホエイ	4,500トン以内	⇒	112トン ※1
バターオイル	185トン	⇒	137トン ※2
バター	8,000～約10,000トン	⇒	14,000トン台 ※3
合計	生乳13.7万トン		生乳18.7万トン

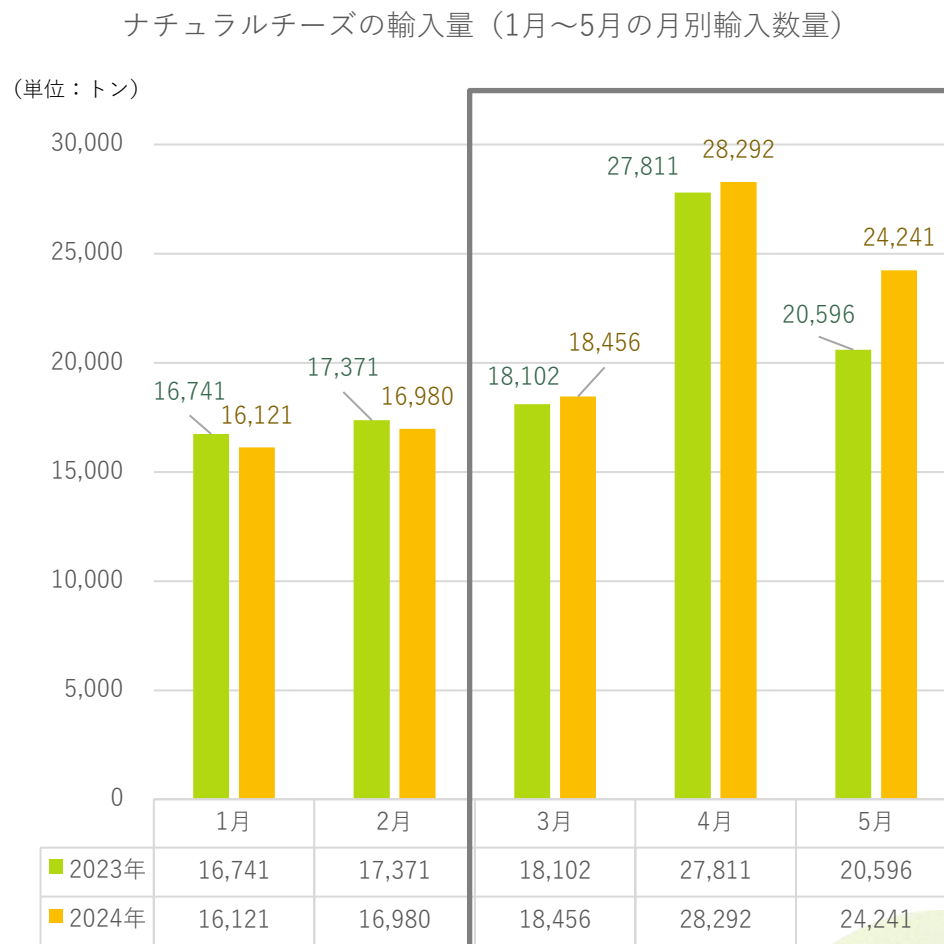
- ※1 2024年6月20日をもって年度内入札終了
- ※2 2024年5月30日をもって年度内入札終了
- ※3 追加枠の他、脱脂粉乳の入札を続けても750トンの枠が消化されない場合には、バターに振り替えて入札を行う

（出典）令和6年6月26日 農林水産省プレスリリース資料および、農林水産省公表情報より

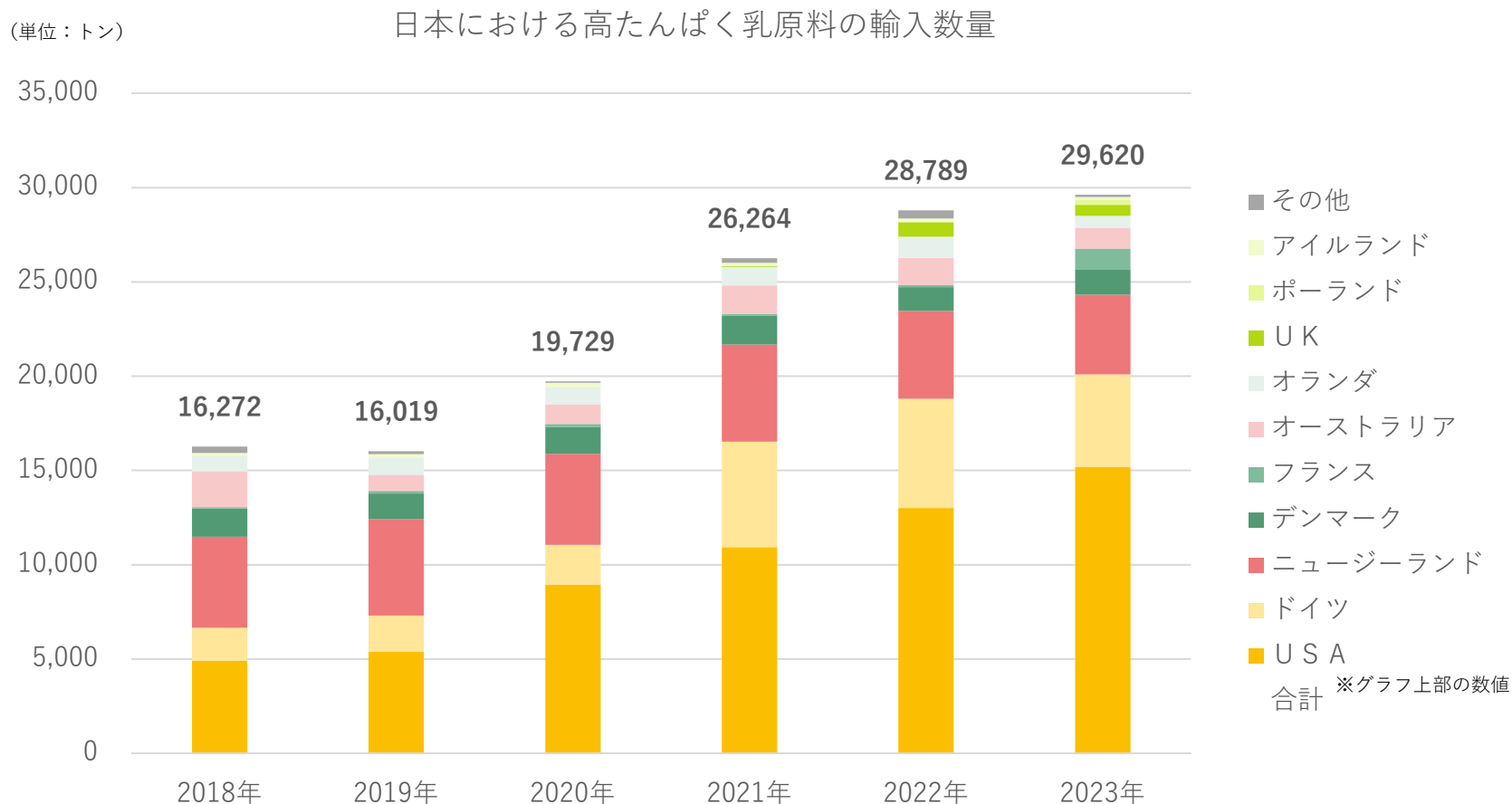
- ナチュラルチーズの輸入量は、足元で反転の兆しもみえる。
- 小売需要はまだ弱くコロナ前水準までの回復には時間を要するとみているが、下期以降も業務用中心に拡販に取り組む。



(出典) 「貿易統計」財務省より



- プロテイン製品の原料となる高たんぱく原料の輸入数量は増加傾向。世界的にも需要が高まり需給がひっ迫。販売数量拡大のため確実な原料調達が鍵となるため安定調達に向けてサプライソースの開拓に注力する。
- 販売先の拡大に向けては展示会なども活用しながらマーケティングも強化。

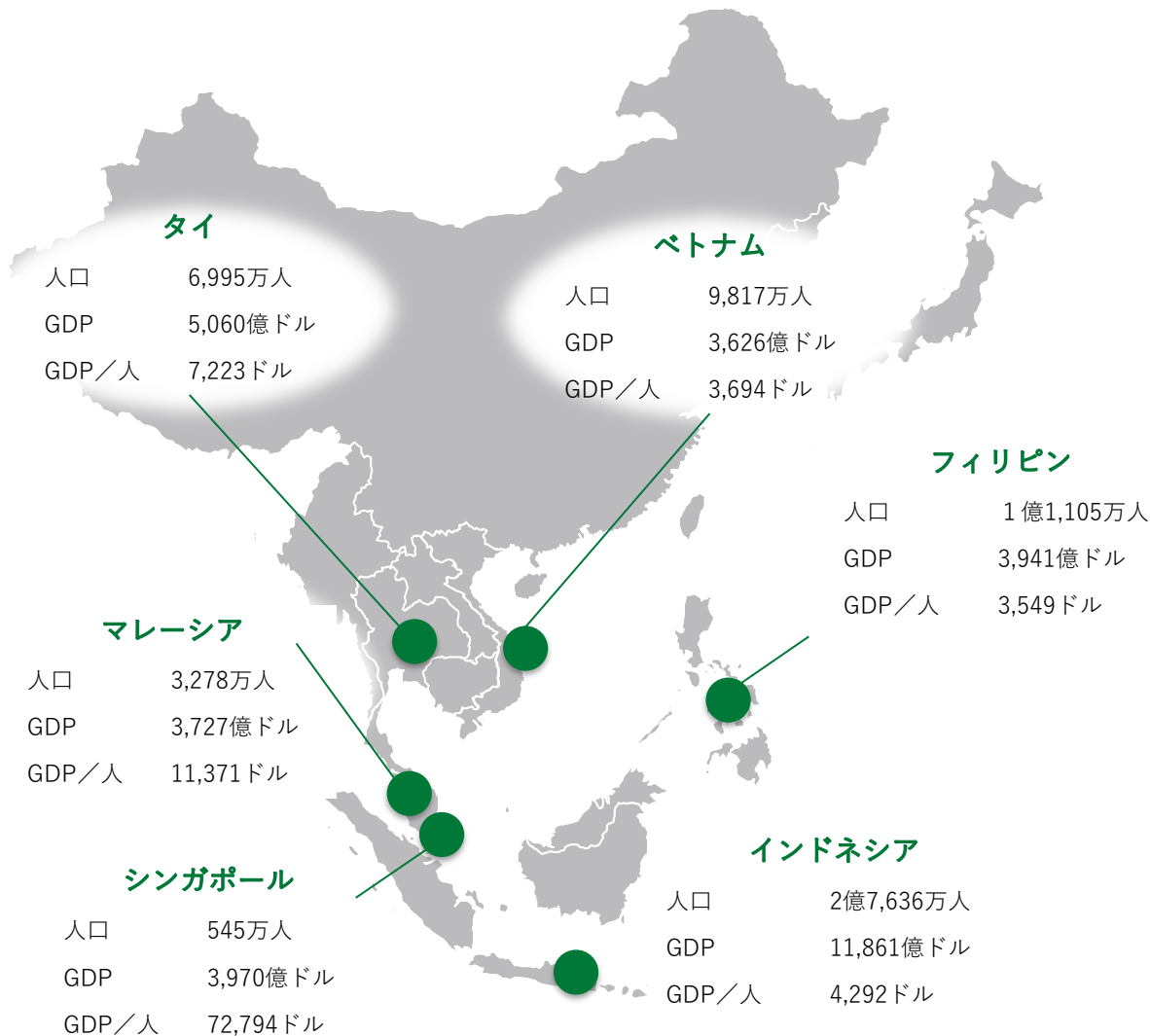


(出典) 「貿易統計」財務省より ラクト・ジャパン作成
 (注) 高たんぱく乳原料：WPC80及びWPIの輸入数量合計

事業部門	下期の見通し
<p>アジア・ 乳原料販売</p>	<p>販売動向 現地日系メーカー向けの原料販売は下期も好調を見込む。 調製品原料販売は回復基調ではあるものの、日本における調製品販売が弱含む可能性もあり、 予想は期初想定よりやや弱めに修正。</p> <p>変動要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本における粉乳調製品需要の動向（日本における乳製品需要の増減）
<p>アジア・ チーズ製造販売</p>	<p>販売動向 ナチュラルチーズは、ほぼ想定通り順調に販売が進む見込み。 プロセスチーズは回復傾向ではあるものの、中国の景気影響で需要低迷が長期化する見込み。 また、回復を期待していたタイにおけるチーズ販売は為替影響（アジア通貨に対するドル高 継続）で加工食品メーカー向け販売で苦戦。見通しを下方修正。 シンガポール、マレーシアの外食向けは堅調を見込む。</p> <p>変動要因</p> <ul style="list-style-type: none"> USドルに対する現地通貨安の進行（原料高によるチーズ使用量減少の懸念）

アジア事業の取組み

- 乳原料販売部門（商社ビジネス）の拡大に向けて営業体制を強化
- チーズ製造販売部門では新工場稼働に向けた準備を着実に進めると同時に、ナチュラルチーズ市場におけるシェア拡大に注力



（出典）「日本とアセアン」（2023年3月改訂版・外務省）より

乳原料販売：営業体制の強化

■ 駐在員の配置見直しで営業力強化

シンガポールからタイへ駐在員を異動。

タイおよび周辺国に対する乳原料販売の営業体制を強化。

インドネシアで新規にオセアニア乳業メーカーの販売代理店契約を獲得。（今期より取引開始）

■ マーケティング活動

タイで開催された食品展示会に初出展

（「THAIFEX」への参加 2024年5月）

チーズ製造販売：ナチュラルチーズ

■ ナチュラルチーズの販売数量増加に取り組む

04 中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の進捗状況

- 2023年11月期～2025年11月期の3か年は、長期ビジョン達成のためのファーストステップとして成長に向けた基盤固めに注力

	Base 既存ビジネスの「進化」	Growth アジア事業の拡大	Challenge 次世代ビジネスの構築
事業成長	サプライソースの 多様化による安定供給	チーズ製造販売事業の拡大	機能性食品をはじめとした 新たな商材の開発
	ベストマッチングを生み出す コンサルティング営業	現地営業体制の強化 販売エリアの拡充	製造・加工の 川下分野の拡充
	日本産食材の輸出	宗教や多様な食文化に対応 した高付加価値製品の開発	酪農等の川上分野への関与
	M&A（海外トレーディングハウスの買収、同業他社の買収、事業提携など）		
経営基盤の 強化	持続可能な酪農・畜産業への貢献 気候変動への適応および環境負荷を軽減するビジネス体制の構築		
	人材開発の強化 / ガバナンスの高度化 / 情報システム整備		

- 中期経営計画の経常利益目標は2年目の2024.11期に前倒しで達成の見込み。
- 通期業績予想の修正とともに、配当も見直し。期初予想より14円の増配を予定。

	2023.11期 (実績)	2024.11期 (予想) 7/12修正値	中期経営計画「NEXT-LJ 2025」		
			2023.11期 (計画)	2024.11期 (計画)	2025.11期 (計画)
連結売上高	1,583億円	1,640億円	1,600億円	1,800億円	2,000億円
連結経常利益	28.5億円	41億円	32億円	36億円	40億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	20.5億円	30億円	23億円	26億円	29億円

	2023.11期 (実績)	2024.11期 (計画) 7/12修正値	2024.11期 (予想) 期初	2025.11期 (計画) 中期計画目標
ROE	8.7%	—	—	10%以上
1株当たり配当金 (中間/期末)	48円 (24円/24円)	76円 (31円/45円)	62円 (31円/31円)	—
配当性向	23.2%	25.2%	25.7%	20~25%
連結自己資本比率	34.2%	—	—	30~35%

ご注意事項

本資料には、当社の戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。

これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

経営環境の変化など、さまざまな要因により変更されることがあります。

あらかじめご了承ください。

